

江戸取図書館便り 4・5月号

ご入学・ご進級 おめでとうございます



授業開始に合わせて開館準備中

季節は、立夏の頃です。暦の上では、季節は夏に入ります。立夏から、季語は「夏」です。旧暦では一年を、二十四節気に分けます。一節気を三候に分けます。一年を、七十二候に分けます。立夏も二十四節気の一つです。この立夏の初候は、夏の始まりを「蛙が鳴き始める」に喩えています。

りっか
「**立夏**」・初候(5日)蛙始鳴(かえる はじめて なく)

- ・次候(10日) 蚯蚓出(きゅういん いずる) *蚯蚓はみみず
- ・末候(15日) 竹笋生(ちくかん しょうず) *笋(筍)は竹の子

⇒「みみず」「竹の子」は、夏の季語ですが、「蛙」一字では、春の季語になります。



☆調べてみましょう ?・!

・江戸時代の俳諧(俳句)三大巨匠(芭蕉・蕪村・一茶)

「古池や蛙飛びこむ水の音」(松尾芭蕉)「蛙」⇒「春の季語」

「日は日暮れ夜は夜明けと鳴く蛙」(与謝蕪村)「鳴く蛙」⇒「春の季語」

「やせ蛙まけるな一茶これにあり」(小林一茶)「やせ蛙」⇒「春の季語」

☆レファレンスや本の探し方など、司書に話しかけてください。お待ちしております。イラストは「因幡の白兔」です。袋の人は「大国主神」です。⇒『古事記』講談社学術文庫(913.2T1) (上)108頁。(司書白井大治)

<新刊本紹介> 『7つの習慣』

スティーブ・R・コビー博士 著

☆お薦めは、「スペシャルエディション」全7巻です。

このシリーズの特徴は、『7つの習慣』の各習慣に「賢者のハイライト」が合本されています。

前半に、各賢者は担当の習慣を読み込みながら手書きで、アンダーラインや書き込み「賢者のハイライト」をします。後半はどの巻も同じ『7つの習慣』です。⇒「初志貫徹」ゴールへの「7つの習慣」調べてみましょう

- *第1の習慣「主体的である」(熊谷正寿)。
- *第2の習慣「終わりを思い描くことから始める」(鈴木美穂)。
- *第3の習慣「最優先事項を優先する」(森川亮)。
- *第4の習慣「Win-Winを考える」(ゆうこす)。
- *第5の習慣「まず理解に徹し、そして理解される」(麻野耕司)。
- *第6の習慣「シナジーを創り出す」(桜木健二)。
- *第7の習慣「刃を研ぐ」(小倉優子)。
- *ショーン・コビー著(コビー博士は父) 『7つの習慣 ティーンズ』『日本のティーンズ実践編』もお薦め!



雨蛙(夏の季語)

?・!
調べてみましょう



蛙(春の季語)



かたがと 蝌蚪(春の季語)
(おたまじゃくし)

